

タイトル	<i>Many Moons</i>				
著者（文・絵）	James Thurber, illustrated by Louis Slobodkin				
出版年	1943	出版社	Voyager Books		
翻訳版	『たくさんのお月さま』なかがわちひろ訳、徳間書店、1994年				
総語数	3103語	ページ数	48ページ	YLレベル	4.0
あらすじ					
<p>昔々、海辺の王国にレノア姫という10歳になるお姫様が住んでいました。が、ある時ラズベリーのタルトを食べすぎて病気になってしまい、王様が何かほしいものはないか尋ねたところ、お月様がほしいと言い出したからさあ大変。王様は宮廷の大臣、魔術師、学者らに相談しますが、らちが明かず…。溜息をつきながら道化師を呼んでコトの次第を話したところ、道化師が見事お姫様のために月を用意します。しかし、今度は空にのぼる月を隠す必要が出てきて…。またまた道化師が見事な活躍を見せるというお話です。</p>					
紹介					
<p>作者のジェームズ・サーバーは雑誌 <i>The New Yorker</i> で活躍した作家で、ユーモアあふれる作風で知られています。本作品はサーバーによる絵本の一つで、1944年にコールドコット賞を受賞しています。絵本と言っても、幼児向けとしては難解で、英語学習者にも難しい表現が多々含まれていますが、創意工夫してアイデアを出す (think outside the box) の重要性、決めつけるのではなく、まず人の話をよく聞くことの大事さなどを学ぶことができます。</p> <p>以下はお月様を欲しがらるお姫様のため対策を考える際、月への距離などについて、この物語の登場人物がどう考えていたかをそれぞれ示したものです（物語に出てくる順番どおりに記述）。</p>					
	<u>月への距離</u>	<u>月の材料</u>	<u>月の大きさ</u>		
宮内長官	35,000 マイル	溶銅	王女の部屋より大きい		
魔術師	150,000 マイル	緑のチーズ	宮殿の2倍		
数学者	300,000 マイル	アスベスト	王国の半分		
お姫様	窓辺の木ほど高くない	金	親指の爪より小さい		
鍛冶屋	500,000 マイル	ブロンズ	--		
<p>大人は月とはとても遠くにある大きなものと考えていて、絶対に手に入れられるはずのないものと決めつけています。（月が何でできているかの回答は作者のユーモアのセンスが光っているところです。）確かに月を手に入れるのは物理的には無理な相談で、お姫様の願いをかなえられるはずありません。そのためお偉方はすっかりあきらめてしまうのですが、道化師はお姫様が月はどうなるものかだと思っているのかまず聞きに行くこと</p>					

にします。お姫様は、お月様は親指の爪よりも小さいぐらいで、金でできていて、窓辺の木に隠れて見えないこともあるので、それほど高いところにあるものではないとあっさり答えてくれます。それをヒントに道化師は鍛冶屋に金のネックレスを作ってもらい、お月様としてプレゼントしたのでした。これはビジネス戦略ととらえることもできるでしょう。顧客のニーズを的確に形にすることで成功した例です。

しかし、これで一件落着かと思ったところに新たな問題が浮上します。「お月様」をプレゼントできたのはよかったのですが、本物の月は夜になればまた空に現れます。お姫様に嘘がばれてしまうと頭を抱えた王様はまたお偉方に相談。お姫様に真っ暗なメガネをつけさせる、黒いベルベットのカーテンをひく、花火で明るくするなど、非現実的な方法しかアイデアが出てこないうちに、すでに月は出ていました。困った道化師は、やはり今度も直接お姫様に尋ねます。なぜお月様がお姫様の手元にあるのに、空にも月がでているのかと。するとお姫様はさも当然のように、歯が抜けたら新しい歯が生えてくるのと同じように、お月様もまた昇るのだというのでした。これこそが Many Moons のタイトルが示すところです。

無理難題を出されるものの、それをうまく解決してスッキリするような物語は他にもあります。例えば、ジョン王がカンタベリー大司教を困らせようと3つの質問をする話や、『姥捨て山』のように、殿様が隣国から突き付けられた難題を老婆がいとも簡単に解決する話、将軍様からの難題にとんちでこたえる一休さんのお話などです。こちらは為政者の姿勢を問う意味合いが強い物語といえますが、本作は頭を柔らかくして考えること、相手の立場に立って考えることを示唆する軟らかなメッセージと言えるのではないのでしょうか。

#### 指導ポイント・授業活用例・学生の声など

##### 【注意すべき英語表現ほか】

この絵本の中には、surfeit（過度の摂取、食べすぎ）のような普段ほとんど使われない単語や、学習者には難しい表現も出てきます。『ハリー・ポッター』にも出てきたような魔法に関する単語も出てきて、興味をそそられるところでもあります。学生が知らないと思われる単語をすべてリストしているとかかなりの数にのぼるので、網羅的にではなくポイントを絞って紹介するとよいでしょう。

##### ➤ 童話の決まり文句や宮廷関連の単語

Once upon a time 昔々あるところに

throne room 謁見室

Lord High Chamberlain 宮内長官

Your Majesty 陛下（呼びかけに使う）なお、このような敬称は階級や職位によって使い分けられています。殿下 Your Highness, 裁判官 Your Honor など。

court jester 宮廷道化師（王侯や貴族に雇われたエンターテイナー）

lute リュート（楽器）

##### ➤ 魔法に関する単語

Philosopher's stone 賢者の石

Magic wands 魔法の杖

Seven league boots 一足で7リーグ (21 マイル) 歩ける魔法のブーツ

Golden touch 金の手 (触れるものが金に変わるという伝説)

Cloak of invisibility 隠れ蓑

➤ 難しい表現

Sixes and sevens 混乱した状態

How much IS you have to have to make an Are. Are になるには Is がどのくらい必要か (あまり深く突き詰めて考えず、言葉遊びと理解する程度でよいでしょう。)

【授業活用例】

➤ ストーリーの予測 (Prediction)

途中で話の続きがどうなるか予測してみる。

お月様をどう手に入れるか、どう隠すか、物語の展開を読む前に学生にそれぞれ考えてもらい、その後を予想すると面白いでしょう。なかなか名案は出てこないと思いますが、考えることによって発想の転換の妙がさらに強調できるはずです。

➤ ディスカッション

以下のようなテーマで話し合いをしてみましょう。

- 何かモノを手に入れると人は幸せになれるのでしょうか。
- お姫様は本当にお月様を求めていたのでしょうか。
- 子どもが何かを欲しがったとき、どのように対処するのが良いと思いますか？
- 王様がとった行動についてどう思いますか？
- 知識(knowledge)と知恵(wisdom)はどう違うか、定義してみましょう。
- この物語では月は金でできていたり、チーズだったりと考えられています。あなたも月がどんなものでできているか想像を膨らませて、物語を作ってみましょう。
- あなたにとって月はどんなイメージがありますか。

関連作品・参考 URL

YouTube にナッシュビルの図書館が制作した人形劇がアップロードされています。30分ほどかかり、素人の作品であることは明らかですが、原作のイメージをうまく伝えていると思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=mBvHyoPRMg>

*King John and the Abbot of Canterbury*

<http://www.english-for-students.com/The-Three-Questions.html>

©英語多読教育研究会

(文責：小林めぐみ)